

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394200139		
法人名	社会福祉法人 長福会		
事業所名	グループホームデイパーク大府	1F	
所在地	愛知県大府市横根町箕手94番3		
自己評価作成日	令和4年12月20日	評価結果市町村受理日	令和5年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2394200139-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年2月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で外出や面会の制限が続いていますが、入居者様には閉鎖的な環境を作らないように支援しています。
季節を感じて頂くイベントやレクリエーションを職員が提供しています。旬な食材を使った調理レクや外の木々や花の散策散歩など感染対策を実施した上で行っていきます。
身体機能低下防止のために毎日の運動や機能訓練、居室の掃除や洗濯干しや洗濯たたみなどの生活動作を積極的に行っていただくよう取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

現状、地域の方との交流が困難な状況が続いているが、例年は、運営法人全体で地域の方との交流に取り組んでおり、ホームからも利用者と一緒に行事に参加する機会をつくり、地域の方との交流につなげる取り組みが行われている。利用者の外出についても困難な状況が続いているが、ホームでは運営法人の関連事業所の前にある花壇の手入れに利用者が出かける取り組みを継続しており、季節や天候等にも合わせながら利用者の外出の機会を確保すると共に身体機能の維持につなげている。日常生活に関する支援については、職員間で利用者に関する支援内容の検討を行いながら、一人ひとりの意向等に合わせた生活につなげる取り組みが行われている。また、運営法人全体で年間を通じて様々な職員研修等が行われており、職員の資質向上に向けた取り組みを継続している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関に事業所理念が掲示しており、会議等で職員が共有し、実践に繋げている。	運営法人の基本理念を当ホームについても支援の基本に考えており、ホーム内の掲示やパンフレットへの記載が行われている。また、職員についても、運営法人の関連事業所からの異動の職員も多く、理念の共有と実践が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナの影響で地域の方々との交流が難しいが、散歩等で近隣の方々との挨拶や会話を積極的に行っている。	地域の方との交流については、運営法人全体で行われているが、感染症問題もあり、現状は困難な状況が続いている。関連事業所で地域の学校との交流が再開される等、徐々に緩和に向けた取り組みが行われており、ホームでも可能な範囲で交流の機会がつけられている。	地域の方との交流については、今後の感染症の状況もみながら徐々に制限等が緩和されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	大府市受託事業として地域住民の方々への介護予防や健康づくり支援、地域交流等にも積極的に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在は書面にて運営推進会議を行い、頂いた意見を職員全員が目を通し、共有している。	会議については書面による実施が続いているが、毎回、関係者に書面を通じて意見等を得ており、情報交換等が行われている。家族についても、年間を通じて全員の方にホームの現状を知ってもらう働きかけが行われており、家族との交流の機会につなげている。	書面による会議の実施が続いている状況でもあるため、今後の感染症の状況をみながら、会議が再開されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	現在は管理者、ケアマネージャーが行っている。	広域連合や市の担当部署との情報交換等については、運営法人を通じて行われているが、研修会等が実施される際にはホームからも職員が参加する機会をつくっている。また、地域包括支援センターとも認知症カフェ等の案内を行う等、協力関係につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠を含めた身体拘束、抑制をしないケアの実践ができています。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、ユニットの出入り口についても利用者が開閉できる構造であることで、職員間で連携した見守りが行われている。また、関連事業所とも連携しながら定期的な委員会活動や職員研修が行われており、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所内での研修を受け、職員一人ひとりが理解し、虐待防止の徹底ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度を学ぶ機会がなく、主に管理者が行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	主に管理者が契約、説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族からの要望や意見は常に電話やアンケート等でお聞きできる環境であり、ケア並びに運営に反映する事ができている。	家族との交流が困難な状況が続いているが、面会の実施等、可能な範囲での交流が行われている。家族からの要望等については、リーダーが受け付け、管理者が対応する体制が明記されている。また、毎月の利用者毎の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者や、管理者に意見や提案を伝える機会は常にある。	毎月の職員会議や日常的な職員間での意見交換等を行いながら、管理者やリーダーが把握した職員からの意見等を運営に反映する取り組みが行われている。日常的にもリーダーを中心に職員間での意見等を取りまとめたり、職員間で役割分担が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員個々が働きやすい環境の整備が整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修の機会を設け、職員一人ひとりが働きながらスキルアップできるような取り組みができている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	主に管理者が行っているが、外部からの研修も開催されており、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人様、ご家族とコミュニケーションを密に取りながら信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	来所時に挨拶や日々の様子等の報告、月に一度、お手紙にて近況報告を行い、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	主に管理者が行っている。サービス導入前からご本人様、ご家族様とコミュニケーションを図り、相談等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様一人ひとりの状態、状況に合わせてやれる事を共に行い、助け合った生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	受診や日用品の買い物等をご家族へ依頼し、職員、ご家族と共に支援する関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナの影響により面会、外出等に制限があるがWEB面会や手紙のやり取り、電話の取り次ぎ等の支援を行い外部との関係を継続できる様、努めている。	現状、外部の方との交流が困難な状況が続いているが、利用者の中には、馴染みの方との関係継続につながる支援が行われている。また、家族との外出についても、身内の方の葬儀に出かける等、感染症対策をお願いしながら外出する機会がつけられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の相性を把握し、協力しあえる環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	主に管理者が行っているが、転居先へ生活の様子や注意点等の報告を行っている。同法人内で転居される方も多いため、関係が途切れる事は少ない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中からできる限り希望や意向を把握する様努め、月に一度の会議で職員間での共有、検討を行っている。	職員間で利用者を担当しながら意向等の把握が行われている。アセスメントの様式の見直しが行われており、家族の状況等の把握や利用者や家族の意向等把握を行いながら、毎月のカンファレンスや日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前に今までの生活歴や利用していたサービス等を把握し、ご本人、ご家族からの情報収集を行い職員間での共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者一人ひとりの状態、状況を職員間で申し送り、把握できる様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画を定期的に見直し、ご本人の意思を最優先としたケア、ご家族の思いを把握したケアを意識して行っている。	介護計画については、6か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。1日1ページの記録用紙の活用を行いながら、利用者に関する変化等の把握を行い、定期的なモニタリングにつなげる取り組みも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の状態を分かりやすくする為に3色に色分けし、カルテ記載を行なっている。職員間で情報の共有をし、必要に応じて支援内容を見直し、必要な支援を提供できる様努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	移動販売での買い物や、就寝前の入浴など入居者一人ひとりの希望にできる限り寄り添ったサービスの提供に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の遊歩道での散歩や移動販売での買物等の利用で一人ひとりが楽しめる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主に管理者、看護師が行っているが介護職員も受診対応する事でより迅速に対応できる様にしている。	ホームでは、複数の医療機関と協力関係をつくっているが、多くの利用者が今までのかかりつけ医を継続しており、家族の支援で受診が行われている。また、運営法人の関連事業所の看護師との連携が行われており、医療面での支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	異変や状況を迅速に看護師へ報告、相談し、受診や看護を適切に受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に管理者が行っているが、必要に応じて介護職員も情報提供を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期の入居の受け入れを行なっておらず取り組みをしていない。	運営法人の母体が特養であることで、利用者の段階に合わせて関連の特養への移行も行われており、当ホームでの看取り支援は行われていない。ホームの基本的な方針は家族にも説明が行われており、利用者の身体状態等に合わせた話し合いが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変、事故発生時のマニュアルを作成し、職員間での共有ができています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に避難訓練を行い、災害時に備えている。	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置確認が行われている。ホームの近隣に関連の特養があることで、非常災害時には関連事業所との連携も想定している。また、備蓄品については、当ホーム及び関連事業所に確保されている。	感染症問題が続いていることで、近隣の方や近隣にある関連事業所との連携等が困難な状況が続いている。今後の感染症の状況をみながら、近隣の方や関連事業所との協力関係につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉遣いを常に意識し、丁寧な言葉かけや分かりやすい説明を心掛けている。	基本理念と基本方針には、職員による支援の心得も掲げられており、職員間で共有を行い、利用者への対応につなげている。利用者一人ひとりの生活スタイルやその方が望む生活を考えながら、管理者から職員への注意喚起等の取り組みが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様が自分の意思で選択できる様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人の意思を尊重しながら個々のペースに合わせた生活が遅れる様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	在宅中から愛用していた衣服等を持って来て頂き、好みの服装やおしゃれを楽しんで頂ける様に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節に応じた調理レクの提供や利用者様の好きなお食事を定期的に提供している。食事のアンケートも取り、改善に努めている。	食事については、関連事業所の厨房から提供が行われており、ミキサーやソフト食等の食事形態についても厨房と連携した対応が行われている。ホームでも、季節等に合わせた食事の提供やおやつ作りを行い、利用者もできることに参加する機会がつけられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一日の献立は必要エネルギー量が確保できるものになっている。食事量や水分量を把握し、不足のない様サポートしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行なっている。基本的にはご自身で行って頂いているが介助が必要方には職員が仕上げみがき等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、自立排泄ではない方は定期的にトイレ誘導を行う等、個々の状態に合った対応に努めている。	利用者の排泄状況にも合わせながら記録を残し、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。トイレでの排泄を基本に、看護師とも連携した医療面での支援も行われている。ゼリー食を提供する等、排泄状態の維持、改善につなげる取り組みも行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の排便状況を把握し、水分量の調整や排便を促す飲料の提供を行なっている。また排便を促す体操等を行い便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	一人ひとりの状態、希望に沿い、就寝前を含めた入浴時間を柔軟に提供している。	利用者が週2回の入浴ができるように毎日の入浴の準備が行われており、入浴を拒む方も定期的な入浴ができるように支援が行われている。現状、使用していないが、浴室にリフトの設置が可能であることで、利用者の身体状態に合わせた入浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	自由に休息して頂ける様促しを行なっている。自己にて行えない利用者様には希望をお聞きし休息の時間を設ける様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋の内容を把握する様努めている。疑問点等は支援薬局の薬剤師に問い合わせ服薬方法等の相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの得意、不得意を理解し、個々に合った役割や楽しみを心掛けた支援を行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の為外出支援が行えていない。散歩や少人数での花見等の支援は行えている。	感染症問題が続いていることで、利用者の外出が困難な状況が続いているが、関連事業所のある花壇をホーム利用者と手入れを行う取り組みを継続している。また、日常的にホームの外に出ることができるような支援も行われている。	ホームでは、様々な工夫を行いながら利用者の外出の機会を確保しているが、全体的に外出の機会が限られた範囲となっている。今後の感染症の状況をみながら、外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には金銭トラブル防止の為、管理者が事務所に保管しているが、移動販売での買い物や自動販売機でのジュースの購入等の時には個々で支払いが出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	暑中見舞いや年賀状、電話にてお話する等、個々の希望に沿った支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間の清潔保持、季節感を大切に居心地良く過ごして頂ける様な環境作りを心掛けています。	ホーム内のリビングは限られた広さとなっているが、利用者の席を検討する等、落ち着いて過ごすことができるような生活環境がつけられている。また、季節等にも合わせた飾り付けや利用者の作品を飾る等、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個々が思い思いに過ごせる様に席を検討し、テレビが観やすい位置にソファを配置し、くつろげる空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	在宅時に使用していた家具等を持って来て頂き安心して過ごせる様な工夫を心掛けています。また必要に応じて家族と一緒に整理や整備が出来る様な時間の提供を行っています。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた家具類や好みの物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、居室内にベッドの設置が行われており、現状、全員の方がベッドで生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりが自立した生活を営める様、自席の位置やトイレの場所等を分かりやすく気付ける様な工夫をしている。個々のできる事を見極めスムーズに動ける様な支援に努めている。		